

VII. 自己点検評価委員会報告

平成 19 年度の上半期は、自己点検の一環として年報の冊子体作成とホームページ掲載を行った。年報の作成過程で、年報に掲載するデータの入力書式をより使いやすい形式に改めるとともに、年報に掲載しない「業績」も含めてデータ・ベース化することを検討した。そこで新しいデータ・ベース構築のための作業を下半期に行った。これらと並行して、霊長類研究所開所 40 周年を迎えるにあたり、これまで研究所の教員、職員、学生、共同利用研究員として研究所に在籍した方々の名簿づくりに取り組んだ。この作業は平成 19 年度末までに一段落したが、今後、同窓会組織の結成を視野に入れて作業を継続する予定である。また、学内の大学評価委員会できりまとめる「中期目標の達成状況報告書」ならびに「大学機関別認証評価」の基礎資料作りを行った。これに関連して、「平成 18 年度の研究活動等状況」（6 月）、「中期計画・年度計画進捗状況」（10 月）、「第 1 期中期目標期間の研究評価」（12 月—2 月）をとりまとめた。

自己点検評価委員会：三上章允（委員長）、濱田穰、半谷吾郎、宮部貴子、松沢哲郎（所長）

（文責：三上章允）

VIII. サル所外供給（有償）事業

従来共同利用研究の一環として行っていた「サル所外貸与」を廃止し、平成 17 年度より有償の「サル所外供給」を開始した。平成 19 年度は、9 月 18 日から 10 月 31 日までコモンマーモセットのオス 2 頭の供給個体を提示し、申請を受け付けた。その結果、コモンマーモセット 2 頭を希望する申請が 1 件あり、委員会での協議に基づいて、その申請者に対してコモンマーモセットのオス 2 頭を供給した。

平成 19 年度サル所外供給委員会：大石高生（委員長）、
景山節、平井啓久、田中洋之、神田俊明研究助成掛
長

（文責：大石高生）